

## 東海大学医学部 数学

2023年 2月 2日実施

- 1 (1) a, a, a, a, a, b, b, c の 8 文字を 1 列に並べるとき、並べ方の総数は  である。
- (2) 関数  $y = 8^x - 3 \cdot 2^{x+3} + 2$  は、 $x =$   のとき最小値をとる。
- (3)  $AB = 8$ ,  $BC = 5$ ,  $CA = 7$  である三角形 ABC の内心を I とし、直線 CI と辺 AB との交点を D とする。このとき、三角形 ADI の面積は、三角形 ABC の面積の  倍である。
- (4)  $\int_{-1}^2 (x+2)(x-3)dx =$
- (5) 4 つの鋭角  $A, B, C, D$  が、 $\cos A = \cos B \cos C$ ,  $\sin B = \sin A \sin D$  という 2 つの関係式を満たしているとき、 $\sin C \tan D$  を  $B$  のみで表すと、 $\sin C \tan D =$   である。また、 $\tan A \cos D$  を  $C$  のみで表すと、 $\tan A \cos D =$   である。
- (6)  $n$  を自然数とする。 $\sqrt{n^2 + 63}$  が自然数になるような  $n$  は  個ある。
- (7) 方程式

$$\log_{2023}(11 - 2x) + \log_{\frac{1}{2023}}(1 - x^2) = \log_{2023}(x + 2) + 2 \log_{\frac{1}{2023}}(x + 1)$$

の解は、 $x =$   である。

### 解答

ア. 168 イ.  $\frac{3}{2}$  ウ.  $\frac{7}{30}$  エ.  $-\frac{33}{2}$  オ.  $\tan B$  カ.  $\tan C$  キ. 3 ク.  $5 - \sqrt{34}$

### 解説

- (1)  $\frac{8!}{5!2!1!} = 168$  であるので並べ方の総数は **168** である。
- (2)  $2^x = t$  とおくと、 $t > 0$  であり、 $y = f(t) = t^3 - 24t + 2$  と表すことができる。  
 $f'(t) = 3t^2 - 24 = 3(t - 2\sqrt{2})(t + 2\sqrt{2})$  であるので増減表は以下のようになる。

$t$	(0)	...	$2\sqrt{2}$	...
$f'(t)$		-	0	+
$f(t)$		↘		↗

したがって  $t = 2^x = 2\sqrt{2}$  つまり  $x = \frac{3}{2}$  のときに最小値をとる。

〈〈 模試・講座のご案内 〉〉

## 受験相談会・後期模試・攻略講座を実施します

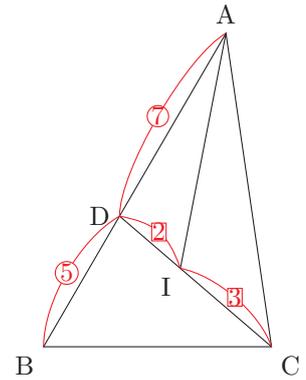
※詳細は最終面をご確認ください

(3) 内心  $I$  は角の二等分線の交点であるので、 $AD : DB = 7 : 5$  から

$$AD = 8 \cdot \frac{7}{12} = \frac{14}{3}, \text{ ゆえに } DI : IC = \frac{14}{3} : 7 = 2 : 3 \text{ を得る.}$$

ここで  $\triangle ABC$  の面積を  $S$  とすると、 $\triangle ADC = \frac{7}{12}S$  であるので、

$$\triangle ADI = \frac{2}{5} \triangle ADC = \frac{7}{30}S. \text{ したがって、} \frac{7}{30} \text{ 倍である.}$$



(4)

$$\begin{aligned} \text{(与式)} &= \int_{-1}^2 (x^2 - x - 6) dx \\ &= \left[ \frac{1}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 - 6x \right]_{-1}^2 \\ &= \frac{8}{3} - 2 - 12 - \left( -\frac{1}{3} - \frac{1}{2} + 6 \right) \\ &= -\frac{33}{2} \end{aligned}$$

(5)  $A, B, C, D$  はすべて鋭角であるのでこれらの三角比はすべて正の値をとる. 条件より

$$\sin A = \frac{\sin B}{\sin D} \dots \textcircled{1}$$

$$\cos A = \cos B \cos C \dots \textcircled{2}$$

である. ①と②をそれぞれ2乗して加えることにより

$$\sin^2 A + \cos^2 A = \frac{\sin^2 B}{\sin^2 D} + \cos^2 B \cos^2 C = 1 \dots \textcircled{3} \text{ を得る.}$$

ここで③の中辺と右辺を  $\cos^2 B$  で割ると、

$$\begin{aligned} \frac{\tan^2 B}{\sin^2 D} + \cos^2 C &= \frac{1}{\cos^2 B} \\ \Leftrightarrow \frac{\tan^2 B}{\sin^2 D} + 1 - \sin^2 C &= 1 + \tan^2 B \\ \Leftrightarrow \left( \frac{1 - \sin^2 D}{\sin^2 D} \right) \tan^2 B &= \sin^2 C \\ \Leftrightarrow \tan^2 B &= \sin^2 C \tan^2 D \end{aligned}$$

したがって、 $\sin C \tan D = \tan B \dots \textcircled{4}$  である.

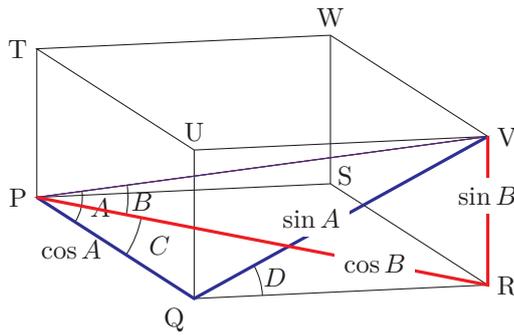
①を②で割ることにより

$$\begin{aligned} \frac{\sin A}{\cos A} &= \frac{\sin B}{\cos B \cos C \sin D} \\ \Leftrightarrow \tan A &= \frac{\tan B}{\sin D \cos C} \\ &= \frac{\sin C \tan D}{\sin D \cos C} \quad (\because \textcircled{4}) \\ &= \frac{\tan C}{\cos D} \end{aligned}$$

したがって、 $\tan A \cos D = \tan C$  である.

別解

直方体 PQRS - TUVW を考える.



対角線の長さを 1 とする.  $\cos \angle VPQ = A$  とおくと  $PQ = \cos A$ ,  $QV = \sin A$  となる.

また  $\cos \angle VPR = B$  とおくと  $PR = \cos B$ ,  $VR = \sin B$  となる.

この場合  $\frac{PQ}{RP} = \frac{\cos A}{\cos B} = \cos C$  であるから ( $\because \cos A = \cos B \cos C$ ),  $\angle RPQ = C$  である.

また  $\frac{VR}{QV} = \frac{\sin B}{\sin A} = \sin D$  であるから ( $\because \sin B = \sin A \sin D$ ),  $\angle VQR = D$  である.

以上により  $\sin C \tan D = \frac{RQ}{PR} \times \frac{RV}{QR} = \frac{RV}{PR} = \tan B$ ,

$\tan A \cos D = \frac{QV}{PQ} \times \frac{QR}{QV} = \frac{QR}{PQ} = \tan C$  がわかる.

(6)  $\sqrt{n^2 + 63} = k$  ( $k$  は 8 以上の自然数) と表すことができるので, 両辺を 2 乗することにより

$$n^2 + 63 = k^2 \iff (k+n)(k-n) = 63$$

を得る.  $k+n \geq 9$  であるのでこの方程式を満たす自然数の組は  $(k+n, k-n) = (63, 1), (21, 3), (9, 7)$  である.

したがって  $n = 1, 9, 31$  となるので題意を満たす  $n$  は 3 個ある.

(7) 真数条件から  $-1 < x < 1$  を得る. 底をすべて 2023 に揃えると,

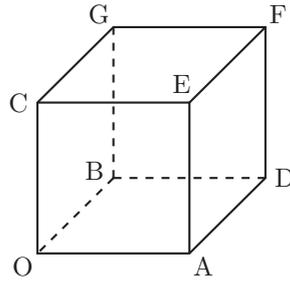
$$\begin{aligned} \log_{2023}(11-2x) - \log_{2023}(1-x^2) &= \log_{2023}(x+2) - \log_{2023}(x+1)^2 \\ \iff \log_{2023} \frac{11-2x}{1-x^2} &= \log_{2023} \frac{x+2}{(x+1)^2} \\ \iff \frac{11-2x}{1-x^2} &= \frac{x+2}{(x+1)^2} \end{aligned}$$

を得る.

$$(11-2x)(x+1) = (x+2)(1-x) \iff x^2 - 10x - 9 = 0 \iff x = 5 \pm \sqrt{34}$$

真数条件と合わせて, 求める解は  $x = 5 - \sqrt{34}$ .

- 2  $k > 1$  とする. 下図のような 1 辺の長さが 1 の立方体 OADB-CEFG において,  $\overrightarrow{DL} = k\overrightarrow{DF}$  となる点を L とし, 直線 OL と面 CEFG との交点を M とする.  $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$ ,  $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$ ,  $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$  とする.



- (1)  $\overrightarrow{OM}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表すと  $\boxed{\text{ア}}$  であり,  $|\overrightarrow{OM}| = \boxed{\text{イ}}$  である.  
 (2)  $\cos \angle AOM = \boxed{\text{ウ}}$  であり, 三角形 OAM の面積は  $\boxed{\text{エ}}$  である. また, 点 C から平面 OAM へ下ろした垂線と, 平面 OAM との交点を H とする. 垂線 CH の長さは  $\boxed{\text{オ}}$  であり, 四面体 OAMC の体積は  $\boxed{\text{カ}}$  である.  
 (3) 点 O と異なる点 N が線分 OF 上にあり,  $\overrightarrow{ON} \perp \overrightarrow{MN}$  を満たすとき,  $\overrightarrow{ON} = \boxed{\text{キ}}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$  である. また, 四面体 ABCN の体積は  $\boxed{\text{ク}}$  である.

解答

ア.  $\overrightarrow{OM} = \frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c}$  イ.  $\frac{\sqrt{k^2+2}}{k}$  ウ.  $\frac{1}{\sqrt{k^2+2}}$  エ.  $\frac{\sqrt{k^2+1}}{2k}$  オ.  $\frac{1}{\sqrt{k^2+1}}$  カ.  $\frac{1}{6k}$   
 キ.  $\frac{k+2}{3k}$  ク.  $\frac{1}{3k}$

解説

$|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}| = 1$ ,  $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} = 0$  であり, また,  $\overrightarrow{OL} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AD} + \overrightarrow{DL} = \vec{a} + \vec{b} + k\vec{c}$  である.

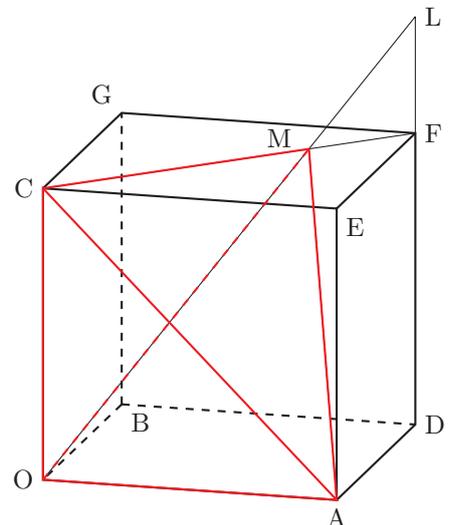
- (1) M は直線 OL 上にあるので,  $\overrightarrow{OM} = l\overrightarrow{OL} = l\vec{a} + l\vec{b} + kl\vec{c}$  とおける.  
 M が面 CEFG 上にあるので,  $kl = 1 \iff l = \frac{1}{k}$ . よって,  $\overrightarrow{OM} = \frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c}$  である. また,  
 $|\overrightarrow{OM}|^2 = \frac{1}{k^2}|\vec{a} + \vec{b} + k\vec{c}|^2 = \frac{k^2+2}{k^2}$  より,  $|\overrightarrow{OM}| = \frac{\sqrt{k^2+2}}{k}$  である.  
 (2)  $\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OM} = \vec{a} \cdot \left(\frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c}\right) = \frac{1}{k}$  である.

よって,

$$\cos \angle AOM = \frac{\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OM}}{|\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OM}|} = \frac{\frac{1}{k}}{\frac{\sqrt{k^2+2}}{k}} = \frac{1}{\sqrt{k^2+2}}$$

であり,

$$\begin{aligned} \Delta OAM &= \frac{1}{2} \sqrt{|\overrightarrow{OA}|^2 |\overrightarrow{OM}|^2 - (\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OM})^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{1 \cdot \frac{k^2+2}{k^2} - \frac{1}{k^2}} \\ &= \frac{\sqrt{k^2+1}}{2k} \end{aligned}$$



次に、H が平面 OAM 上にあるので、

$$\vec{OH} = s\vec{OA} + t\vec{OM} = \left(s + \frac{t}{k}\right)\vec{a} + \frac{t}{k}\vec{b} + t\vec{c}$$

とおけ、 $\vec{CH} = \vec{OH} - \vec{OC} = \left(s + \frac{t}{k}\right)\vec{a} + \frac{t}{k}\vec{b} + (t-1)\vec{c}$  と表される。

直線 CH と平面 OAM が直交するので、 $\vec{CH} \perp \vec{OA}$  かつ  $\vec{CH} \perp \vec{OM}$  が成り立つ。  
 $\vec{CH} \perp \vec{OA}$  より、

$$\vec{CH} \cdot \vec{OA} = 0 \iff \left\{ \left(s + \frac{t}{k}\right)\vec{a} + \frac{t}{k}\vec{b} + (t-1)\vec{c} \right\} \cdot \vec{a} = 0 \iff s + \frac{t}{k} = 0$$

これより、 $\vec{CH} = \frac{t}{k}\vec{b} + (t-1)\vec{c}$  とわかる。

$\vec{CH} \perp \vec{OM}$  より、

$$\begin{aligned} \vec{CH} \cdot \vec{OM} = 0 &\iff \left\{ \frac{t}{k}\vec{b} + (t-1)\vec{c} \right\} \cdot \left( \frac{1}{k}\vec{a} + \frac{1}{k}\vec{b} + \vec{c} \right) = 0 \\ &\iff \frac{t}{k^2} + t - 1 = 0 \end{aligned}$$

これを整理して、 $t = \frac{k^2}{k^2+1}$  となり、 $\vec{CH} = \frac{k}{k^2+1}\vec{b} - \frac{1}{k^2+1}\vec{c}$  となる。

$|\vec{CH}|^2 = \left| \frac{k}{k^2+1}\vec{b} - \frac{1}{k^2+1}\vec{c} \right|^2 = \frac{1}{k^2+1}$  となるので、 $|\vec{CH}| = \frac{1}{\sqrt{k^2+1}}$  である。

ゆえに、四面体 OAMC の体積は、

$$\frac{1}{3} \triangle OAM \cdot CH = \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{k^2+1}}{2k} \cdot \frac{1}{\sqrt{k^2+1}} = \frac{1}{6k}$$

**別解**

四面体 OAMC の体積は以下のように求めることもできる。

四面体 OAMC の体積は、四面体 OAFC の体積の  $\frac{CM}{CF}$  倍であり、

$$CM : CF = OM : OL = DF : DL = 1 : k$$

なので、 $\frac{CM}{CF} = \frac{1}{k}$  である。また四面体 OAFC の体積は、

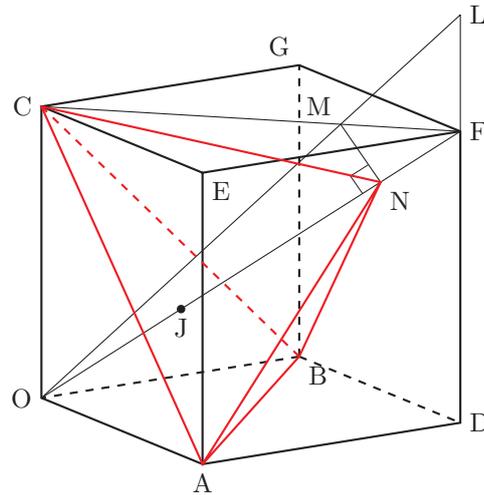
$$\frac{1}{3} \cdot \triangle OAC \cdot EF = \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 = \frac{1}{6}$$

なので、四面体 OAMC の体積は  $\frac{1}{6} \cdot \frac{1}{k} = \frac{1}{6k}$ 。

(3) N が OF 上にあるので、

$$\vec{ON} = x\vec{OF} = x(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$$

とおけ、 $\vec{MN} = \vec{ON} - \vec{OM} = \left(x - \frac{1}{k}\right)\vec{a} + \left(x - \frac{1}{k}\right)\vec{b} + (x-1)\vec{c}$  と表される。



$\vec{OF} \perp \vec{MN}$  より,

$$\begin{aligned} \vec{OF} \cdot \vec{MN} = 0 &\iff (\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot \left\{ \left(x - \frac{1}{k}\right) \vec{a} + \left(x - \frac{1}{k}\right) \vec{b} + (x-1) \vec{c} \right\} = 0 \\ &\iff \left(x - \frac{1}{k}\right) + \left(x - \frac{1}{k}\right) + (x-1) = 0 \iff x = \frac{k+2}{3k} \end{aligned}$$

したがって,  $\vec{ON} = \frac{k+2}{3k}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$  である.

また,

$$\vec{OF} \cdot \vec{AB} = (\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{b} - \vec{a}) = 0$$

$$\vec{OF} \cdot \vec{AC} = (\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{a}) = 0$$

となるので,  $OF \perp$  平面  $ABC$  であることがわかる. よって  $\triangle ABC$  の重心を  $J$  とすると, 四面体  $ABCN$  の底面を  $\triangle ABC$  としたときの高さは  $JN$  である.

$\triangle ABC$  は 1 辺の長さが  $\sqrt{2}$  の正三角形であり, その面積は  $\frac{1}{2}(\sqrt{2})^2 \sin \frac{\pi}{3} = \frac{\sqrt{3}}{2}$  である. また,

$$\vec{JN} = \vec{ON} - \vec{OJ} = \frac{k+2}{3k}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}) = \frac{2}{3k}(\vec{a} + \vec{b} + \vec{c})$$

であり,  $|\vec{JN}| = \frac{2\sqrt{3}}{3k}$  である. したがって, 四面体  $ABCN$  の体積は,

$$\frac{1}{3} \triangle ABC \cdot JN = \frac{1}{3} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \cdot \frac{2\sqrt{3}}{3k} = \frac{1}{3k}$$

**別解**

四面体  $ABCN$  の体積は以下のように求めることもできる.

$OF \perp$  平面  $ABC$  かつ  $OF \perp MN$  より,  $MN \parallel$  平面  $ABC$  である. したがって, 四面体  $ABCN$  と四面体  $ABCM$  の体積は等しい. 四面体  $ABCM$  の体積は, 四面体  $ABCF$  の体積の  $\frac{CM}{CF} = \frac{1}{k}$  倍である. また四面体  $ABCF$  は, 立方体から四面体  $OABC$  およびそれと合同な四面体を計 4 つ除いたものだから, その体積は

$$1^3 - \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 1 \times 4 = \frac{1}{3}$$

である. 以上から四面体  $ABCN$  の体積は,  $\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{k} = \frac{1}{3k}$ .

3  $a$  を実数とする. 数列  $\{a_n\}$  は, 初項を  $a_1 = a$  とし, 自然数  $n$  に対して, 漸化式  $a_{n+1} = 4|a_n - 1|$  で定義されるものとする.

(1)  $a = \frac{41}{32}$  のとき,  $a_4 = \boxed{\text{ア}}$  である.

(2)  $a = \frac{47}{64}$  のとき,  $a_4 = \boxed{\text{イ}}$  である.

(3) すべての自然数  $n$  に対して  $a_n = a$  となるとき,  $a$  は,  $a = \boxed{\text{ウ}}$ , または,  $a = \boxed{\text{エ}}$  である. ただし,  $\boxed{\text{ウ}} < \boxed{\text{エ}}$  とする.

(4)  $a > \boxed{\text{エ}}$  ならば, 一般項  $a_n$  は,  $a$  を用いて表すと,  $a_n = \boxed{\text{オ}}$  である.

(5)  $a_1 \neq \boxed{\text{ウ}}$  であり, 2 以上のすべての自然数  $n$  に対して  $a_n = \boxed{\text{ウ}}$  となるとき,  $a$  は,  $a = \boxed{\text{カ}}$  である.

(6)  $a_1 \neq \boxed{\text{ウ}}$ , かつ,  $a_2 \neq \boxed{\text{ウ}}$  であり, 3 以上のすべての自然数  $n$  に対して  $a_n = \boxed{\text{ウ}}$  となるとき,  $a$  は,  $a = \boxed{\text{キ}}$ , または,  $a = \boxed{\text{ク}}$  である. ただし,  $\boxed{\text{キ}} < \boxed{\text{ク}}$  とする.

解答

ア. 2 イ. 3 ウ.  $\frac{4}{5}$  エ.  $\frac{4}{3}$  オ.  $\left(a - \frac{4}{3}\right) \cdot 4^{n-1} + \frac{4}{3}$  カ.  $\frac{6}{5}$  キ.  $\frac{7}{10}$  ク.  $\frac{13}{10}$

解説

(1)

$$a_2 = 4 \left| \frac{41}{32} - 1 \right| = 4 \cdot \frac{9}{32} = \frac{9}{8}$$

$$a_3 = 4 \left| \frac{9}{8} - 1 \right| = 4 \cdot \frac{1}{8} = \frac{1}{2}$$

$$a_4 = 4 \left| \frac{1}{2} - 1 \right| = 4 \cdot \frac{1}{2} = 2$$

(2)

$$a_2 = 4 \left| \frac{47}{64} - 1 \right| = 4 \cdot \frac{17}{64} = \frac{17}{16}$$

$$a_3 = 4 \left| \frac{17}{16} - 1 \right| = 4 \cdot \frac{1}{16} = \frac{1}{4}$$

$$a_4 = 4 \left| 1 - \frac{1}{4} \right| = 4 \cdot \frac{3}{4} = 3$$

(3)  $a = 4|a - 1|$  が成り立つ.

$$a \geq 1 \text{ のとき, } a = 4(a - 1) \text{ より } a = \frac{4}{3}.$$

$$a < 1 \text{ のとき, } a = 4(-a + 1) \text{ より } a = \frac{4}{5}.$$

$$\text{したがって, } a = \frac{4}{5}, \frac{4}{3}.$$

(4)  $a_n > \frac{4}{3}$  とすると,

$$a_{n+1} - \frac{4}{3} = 4(a_n - 1) - \frac{4}{3} = 4 \left( a_n - \frac{4}{3} \right) > 0$$

となるので、帰納的に任意の自然数  $n$  で  $a_n > \frac{4}{3}$  である。したがって、

$$a_n - \frac{4}{3} = \left(a - \frac{4}{3}\right) \cdot 4^{n-1}$$

より、

$$a_n = \left(a - \frac{4}{3}\right) \cdot 4^{n-1} + \frac{4}{3}$$

である。

(5)  $\frac{4}{5} = 4|a-1|$  が成り立つ。  $a-1 = \pm\frac{1}{5}$  と  $a \neq \frac{4}{5}$  より、  $a = \frac{6}{5}$ 。

(6)  $a_2 = \frac{6}{5}$  となればよいので、  $\frac{6}{5} = 4|a-1|$  が成り立つ。  $a-1 = \pm\frac{3}{10}$  より、  $a = \frac{7}{10}, \frac{13}{10}$

講評

①[小問集合] ((1) 易 (2) 易 (3) やや易 (4) 易 (5) やや難 (6) やや易 (7) 標準)  
 (5) が難しいが、他は手堅く完答したいところである。

②[空間図形, 空間ベクトル] (標準)

文字が多いので戸惑った受験生も多いかも知れないが、平面や直線に垂線を下ろす、といった典型処理を確実に  
 に行い、完答を目指したい。なお、相似を用いるなど平面内の問題に落とし込んで解くこともできる。

③[数列] (標準)

漸化式に絶対値が含まれるため複雑に見えるので、落ちついて処理していく必要があるが、何とか完答をねら  
 いたい。

本年から、出題範囲に数学Ⅲが含まれなくなった。それと関係があるか定かでないが、昨年度と比べると問題の難  
 易度がやや下がっている。小問集合で (5) 以外を完答に近いところまで仕上げた上で、②, ③ でどれだけ処理しき  
 れたか、という勝負になりそうである。目標は 70%。

**メルマガ無料登録で全教科配信!** 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

医学部進学予備校 <b>メビオ</b> ☎0120-146-156 <a href="https://www.mebio.co.jp/">https://www.mebio.co.jp/</a>	医学部専門予備校  <b>YMS</b> heart of medicine ☎03-3370-0410 <a href="https://yms.ne.jp/">https://yms.ne.jp/</a>	医学部専門予備校 <b>英進館メビオ</b> 福岡校 ☎0120-192-215 <a href="https://www.mebio-eishinkan.com/">https://www.mebio-eishinkan.com/</a>
--	---	--



## 医学部入試攻略ガイド

大阪	2.5(日)	14:00~15:00(ガイダンス) 14:00~15:00(個別相談) 阪急梅田グランドビル会議室
神戸	2.11(土)	14:00~15:00(ガイダンス) 14:00~15:00(個別相談) 三宮研修センター
京都	2.12(日)	14:00~15:00(ガイダンス) 14:00~15:00(個別相談) 京都経済センター (四条烏丸)

## 医学部受験相談会

名古屋	2.5(日)	11:00~16:00 オフィスパーク名駅プレミア会議室
広島	2.5(日)	11:00~16:00 TKPガーデンシティPREMIUM 広島駅前

## 後期模試

金沢医科大学 2.17 関西医科大学 2.22

## 後期攻略講座

近畿大学医学部 2.18・23  
 関西医科大学 2.20・3.2  
 金沢医科大学 2.21・27/2.24 (名古屋)  
 藤田医科大学 2.24 (名古屋)  
 久留米大学医学部 3.6  
 大阪医科薬科大学 3.7

詳しくは Web またはお電話で